

教育広報

# 県北の教育

発行所  
 福島県教育庁県北教育事務所  
 福島市舟場町2番1号  
 電話024-523-1647  
 発行者 有賀仁一

## 『世話』のはなし

県北教育事務所 次長兼学校教育課長 佐々木義通

### その1

『世話』の言葉は頻繁に耳にしたり、目にしたりする。学校に用事があって電話をすると、こちらの名前を名乗るとほとんどの方が「いつも『お世話』になっています。」と丁寧に返してくださる。そんなにお世話もしていないのだがと恐縮しつつも、なぜか心がほのぼのとなる。もちろん電話に出られた方の優しさある話しぶりもそうさせているのであるが。もう一つ。いただいた年賀状を見ていると「旧年中は大変『お世話』になりました。本年も何とぞよろしく・・・」との一文を見かけるし、自分もしっかりと使っていた。我々は、この外にもいろいろな場面で『お世話』なる言葉を使っている。つまり、『世話』という言葉が大変お世話になっているのである。

### その2

『世話』をそのまま読めば「世」の「話」である。自分が使っているのとは意味が違うようであり、辞書をひいてみた。すると、「①通俗の言葉。②世間のうわさ。③現代的・日常的または庶民的なこと。」とあり、④として「(一説にはセワシイ(忙)のセワからか)人のために尽力すること。面倒をみること。また面倒をかけること。」と出てくる(広辞苑を参考)。

### その3

先日、吉永小百合さんと二宮和也さん主演の「母と暮らせば」の映画を見た。二人の親子愛もさることながら、黒木華さん演じる小学校教員の佐多町子のことが印象に残った。ある日、町子は受け持ちの子どもに付き添って復員局に行った。そこで、その子が復員局で祖父に代わって自分の父親の戦死の知らせを聞くのを見て、いっしょに涙ぐむという場面である。現代の学校の先生方も着替えの苦手な子どもを手伝ったり、休みがちな子どもの家庭訪問をしたりとたくさんの世話をしてくださっている。休日には、部活動の世話をされている先生方をよく見かける。子どもたちは、町子先生に限らず学校の先生に親身になってお世話していただいたことを一生忘れないだろう。

### その4

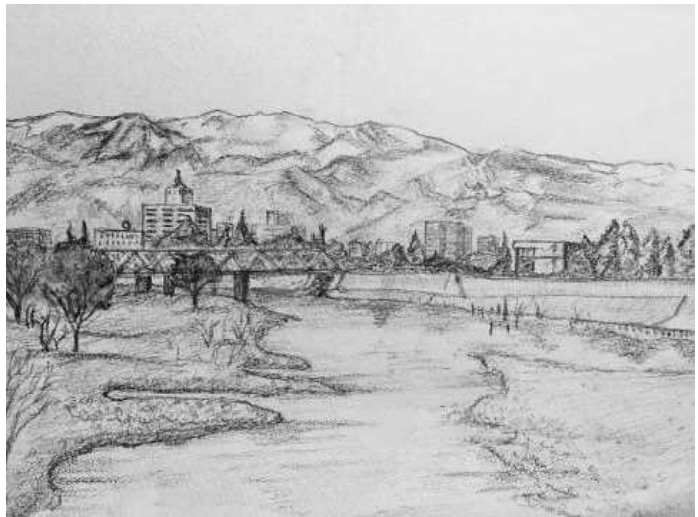
職場の離任式。ほとんどの方々が「お世話になりました。」を用い、感謝を述べる。もちろん、離任する方も、送る方もである。そして、互いに涙を流されることも。このときの『お世話』は、心から述べておられるのだろう。そして、指導案を書くのに夜遅くまで付き合っていたこと、パソコンの使い方を教えていただいたこと、重い荷物を教室まで運んでいただいたこと、自分の悩みを聞いていただいて励ましてもらったこと等々を走馬燈のように思い返しているのかも知れない。このとき、自分もこうした場面にいられて本当によかったと心から思う。

### その5 (まとめに代えて)

最近、学校を訪問させていただくと、「チーム〇〇小」「チーム〇〇中」などという言葉をよく耳にする。さらには教職員全員が同じシャツを身に着けている学校もあった。先生方の仲のよさを感じてしまうし、うらやましく思ってしまう。ところで、「チーム〇〇」は言葉だけではできないはずだ。先生方、そして子どもたちとの心のつながり、いわゆる固い「絆」がその根底になければならないはずである。それを実現させているのは、先生方同士の『お世話』のし合いであり、町子先生のような子どもたちへの親身になった『お世話』なのだろうと私は思う。最近、文部科学省では『チーム学校』なるものを進めようとしている。県北教育事務所では「チーム県北」である。多少、ニュアンスは違うかも知れないが、学校が先取りだったのでないかと思ってしまう。

### その6 (最後に)

私は、自慢できるほどの不器用者である。右の挿絵は、我が教育事務所の岩野政二指導主事に『お世話』になった。感謝、感謝。



## 平成27年度第44回福島県教職員研究論文入賞者表彰式

今年度、県北域内では8点の応募があり、特選1点、入選1点が入賞しました。  
いずれの論文も「生きる力」の育成を目指して、子どもたちが自ら課題もって解決に立ち向かうための取組が具体的に論じられていました。  
受賞、応募された個人、団体は次のとおりです。

### 【特選】

グループ研究 福島市立福島第四小学校 通級指導教室  
研究主題 チームとしての成長をめざす通級指導教室の新担当者研修のあり方

### 【入選】

共同研究 伊達市立保原小学校 校長 佐藤 喜夫  
研究主題 人とかわりながら課題を解決できる子どもの育成  
～「学び合い」を中心として～ Part3



### <応募者>

- 個人研究 学習指導 伊達市立小手小学校 教諭 川村 国央
- 個人研究 特別活動 国見町立国見小学校 教諭 高橋 秀幸
- 個人研究 学習指導 二本松市立油井小学校 教諭 根本 芳宏
- 協同研究 学習指導 本宮市立和田小学校 校長 岡部 智
- 個人研究 学習指導 本宮市立和田小学校 教諭 橋本 純
- 個人研究 特別支援教育 本宮市立岩根小学校 教諭 斎藤 陽子



## 第2回学力向上推進研究協議会

2月4日(木) 中学校、特別支援学校、教育委員会、  
5日(金) 小学校の教頭先生を対象に県教育センターで、各学校の学力向上策の効果的な実践を図るために、学力向上推進研究協議会を開催しました。概要は次のとおりです。

### 1 講義

- (1) 「確かな学力の向上をめざして」
  - ・平成27年度の要請訪問を振り返って
  - ・平成28年度の指導の重点全体構想等
- (2) 「福島県学力調査の結果を受けた全校体制によるPDC Aサイクルの推進」
  - ・福島県学力調査の結果を受けた取組
  - ・全校体制を進めるためのチェックシートの活用
  - ・チェックシートによる自校の分析(演習)

### 2 実践報告

(学力向上のための「つなぐ教育」推進事業)

- 桑折町立醸芳中学校区  
発表者 教頭 齋藤 勇雄(醸芳中学校)
- 二本松市立岩代中学校区  
発表者 教頭 大内 晋(岩代中学校)
- 本宮第一中学校区  
発表者 教頭 三津間勝彦(本宮第一中学校)

### 3 研究協議

同じ学校規模で小グループを作り、持参資料「学力向上プラン」を基に取組の実際と考察、今後の方策等について熱心な協議が行われました。

自校の実態に応じた手立てを取り入れて学力向上策の改善に役立てていただければと思います。



## 小学校体育専門アドバイザー派遣事業

「元気を学校へ届けます」をモットーに今年度から始まった新規事業でしたが、域内のほとんどの小学校へ派遣・訪問することができました。御理解・御協力をいただきありがとうございます。

提出していただいたアンケートには、子ども達が運動する楽しさを感じて活動していた様子が書かれており、学校に少しでも元気を届けることができたと感じております。アンケートの一部を紹介します。

### ○ 授業のサポートに関する感想

改訂運動身体づくりプログラムにおけるちょっとした工夫(場や方法)を教えていただき、子どもたちが新鮮さを感じながら運動できた。

### ○ 自由遊びの支援に関する感想

全校児童を対象に、鬼ごっこや体幹を鍛える運動など、皆で体を動かす楽しさを味わわせていただきました。

今後も、子どもたちが運動する楽しさを感じることができるよう支援していきます。



### 危機意識の高揚

本年度「『飲酒運転・わいせつ・体罰』をゼロにする」を重点目標に掲げ、各学校で「不祥事根絶のための行動計画」の策定・実行に取り組んでもらいましたが、当域内でも不祥事が発生してしまいました。年度末を迎えるこの時期、12月末開催された緊急校長会議の内容を各学校で再確認いただくとともに、特に次の点について注意し、職員一人一人の危機意識高揚を図るようお願いします。

□ **不祥事防止のために**

- 「不祥事根絶のための行動計画」の検証を行い、服務倫理委員会の充実・改善を図る。
- 「信頼される学校づくりを職場の力で」の最新事例やチェックリスト、通知等を活用する。
- 普段から風通しのよい職場づくり、同僚性を生かしたセーフティーネットの構築に努める。

□ **事故の未然防止のために**

(1) **交通事故防止**

前方・後方の確認不足、歩行者の確認遅れ等ちょっとした気の緩みが事故につながります。今後路面凍結や積雪にも注意が必要です。時間と心に余裕をもって安全運転を行いましょう。さらに、歓送迎会等飲酒を伴う会合も増える時期です。引き続き声を掛け合い飲酒運転の根絶に取り組みましょう。



(2) **情報管理の徹底**

事務処理が複雑になる時期です。紙媒体、電子媒体を問わず、各種情報の紛失・流失防止に細心の注意をお願いします。

～ **お知らせ** ～

- ・ 本年度「新たな人事評価制度」の試行が行われました。平成28年度からの本格実施を前に、自身のステップアップに生かすことができるよう制度の趣旨や流れについても一度確認をお願いします。次年度も校長・教頭を対象とした研修会が予定されています。

総務社会教育課（社会教育）

### ～ ふれあいを 未来へつなく 十七字 ～

#### 十七字のふれあい事業

今年もたくさんの御応募をいただきまして、ありがとうございました。県北域内では、3, 103組の応募があり、県全体では38, 594組ありました。県北域内の入賞作品を御紹介します。



【**優秀賞**】かためでも 母のおにぎり おいしいよ (栗野小3年 太田 大輝)  
頑張れと 力が入る ひとにぎり (母 太田 恵子)

【**佳作**】 たからもの かいでつった ぺんだんと (玉井小1年 のうちかいせい)  
貝拾い 喜ぶ姿が 宝物 (母 野内 智子)

なお、平成27年度「十七字のふれあい事業」県北域内優秀作品（8作品）及び県北域内選考作品（143作品）は県北教育事務所のホームページ (<http://www.kenpoku-eo.fks.ed.jp>)で御覧いただけます。

### 「学校・家庭・地域連携サポート事業」 学校支援実践研修会

11月17日（火）に国見町立国見小学校において本研修会を実施しました。事業への理解を深め、学校支援事業関係者の資質の向上を図ることを目的とし、学校支援に携わるコーディネーターやボランティア28名が参加しました。学校支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状についての協議を通して実践を学びました。国見町地域コーディネーター中野由起子氏には今年度の48回の支援活動について報告をしていただき、相馬市地域コーディネーター加藤潤一氏にはこれまでの支援活動、支援プロセスなどについて実践発表をしていただきました。それぞれの取組に対して、活発な質疑応答がなされました。



また、ボランティアの方から、子どもとふれあうことが楽しいといった発表や民話を伝えていくことを大切にしたいといった発表がありました。学校と地域が連携した活動の大切さを感じることができ、今後の活動にもつながる充実した研修になりました。

平成28年度指導の重点全体構想  
福島県教育庁県北教育事務所

(案)

夢実現に向けてがんばる子どもたちに  
生き抜く力の育成



# 力強く歩む子どもを育てる県北の教育

## 第6次福島県総合教育計画

- 基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり
- 基本目標
- 知・徳・体のバランスのとれた社会に貢献する自立した人間の育成
  - 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
  - 豊かな教育環境の形成

## 福島県総合計画「ふくしま新生プラン」

- 主要施策 (教育分野)  
「知・徳・体のバランスのよい育成と生き抜く力をはぐくむ教育を進めます」
- 主な取組
- 豊かな心の育成
  - 健やかな体の育成
  - 確かな学力の育成

## 引き出し、認め、伸ばす教育活動

意欲 思考 表現

自信 自己肯定感

### 確かな学力の向上

#### 「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」

- 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実
  - 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫
  - ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
  - 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
  - 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
  - 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
  - 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実
- 主体的な学習につながる基盤づくり
  - 学習・生活習慣をより向上させる幼保小中の接続による共通実践
  - 読書の意欲と質を高める環境整備と意図的な働きかけ
- 全教職員の組織的な取組とPDCAサイクルの活性化
  - 全国学力・学習状況調査や福島県学力調査等の結果を受けた取組(分析・考察→実践の振り返り→授業改善等実践事項の策定と共有→実践の累積)
  - 各学年で身に付けさせたい力を明確にした具体的な計画(誰が、いつ、どこで、何を)の作成
  - 重点指導事項の見直しと学校課題の克服のための共通実践

### 豊かな人間性・社会性の育成

#### 「心が通う人間関係を築く子ども」

- 互いの気持ちを「伝え合う力」の育成
  - 自分の気持ちを伝え、他者の気持ちを受け止める態度の奨励
  - 自分を深く理解し、他者に共感的に理解する心を育てる道徳の授業の実践
  - 役割意識をもち、自己有用感をもてる特別活動の実践
- 自己の生き方を考える教育活動
  - 自己決定の場を設定し、成果を認め、自信をもたせる指導の工夫
  - 目標達成の過程で、失敗や困難を乗り越える経験を成長に生かす指導の工夫
  - 自分のよさに気づき、夢や希望の実現を目指すキャリア教育の推進
- 子どもの心に寄り添う支援
  - 子どもの変容の的確な見取りとチームでの組織による予防的な取組
  - いじめや不登校の未然防止・早期対応のための家庭、地域と連携した取組
  - 教育相談体制の充実とSC、SSWや関係機関等と連携した心のケアの推進

### 健やかな体の育成

#### 「進んで体力の向上と健康づくりに励む子ども」

- 進んで運動する態度の育成
  - 運動することの楽しさを味わわせる授業の工夫
  - 改訂運動身体づくりプログラムの共通理解・共通実践(小)
  - 運動の習慣化につながる「体づくり運動」の工夫
  - 授業における実質的な運動の時間の確保
  - 運動の系統性や「発達の段階のまとまり」を踏まえた指導の工夫
  - 体力向上推進計画書に基づく体力向上策の共通理解・共通実践
  - 授業以外の体育的活動(楽間活動、部活動等)に対する取組の充実
- 健康で安全な生活を実践する態度の育成
  - 健康に関する知識を身に付け、自ら実践する力を育成する指導の推進
  - 給食指導の充実及び家庭や地域と連携した計画的な食育の推進
  - 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む安全指導の推進
  - 主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育・放射線教育の充実

家庭や地域社会との連携

関係機関との連携

### 幼稚園教育の充実

- 幼児一人一人を育む長期的な見直しをもった指導計画への改善
  - 幼児一人一人の発達の実情や地域のよさを生かした特色ある教育課程の編成
  - 生活及び発達や学びの連続性を踏まえた指導計画の作成
- 主体的な活動が確保される保育環境の充実
  - 教師の人的環境としての役割の自覚と具体的な環境の整備
  - 幼児期運動指針に基づき、進んで運動に取り組む指導の工夫
  - 特別な支援が必要な幼児の実態に応じた指導内容・方法の充実
- 幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の充実
  - 次の手立てや支援に生かすための評価の工夫
  - 記録の累積や教師相互の意見交換による幼児一人一人の発達を見取る工夫

### 特別支援教育の充実

- 全教職員の連携・協力による校(園)内支援体制の充実
  - 特別支援教育コーディネーターを中心とした校(園)内委員会や校内研修、ケース会議の活性化
  - 教職員間での支援策の共有化と役割の明確化
- 一人一人のニーズに応じた指導の充実
  - 家庭や本人との丁寧な教育相談に基づく個に応じた支援の充実
  - 子どもの特性や教育的ニーズに基づく指導のねらいと支援方針の明確化
  - 「個別的教育支援計画」の作成・活用と「個別の指導計画」を基にした授業の工夫・改善
- 集団の中で助け合い共に伸びる友達関係づくりへの支援の充実
  - 互いのよさや特性等を認め合う集団づくりの推進
  - 教師が仲立ちとなり適切に関わり合わせるための支援の工夫
  - ねらいを明確にした交流及び共同学習の組織的・計画的な推進
- 家庭、地域及び関係機関との連携強化
  - 他の学校や保健福祉等の関係機関との連携及び特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用
  - 各種便りや研修会等による家庭や地域への特別支援教育の継続的な啓発

## 学級・学習集団づくり

～ 安心感・存在感・向上心 ～

- 学級経営方針の明確化と全職員が組織的に関わる体制づくり
- 全員が気持ちよく学ぶためのルール・明確化・共有化
- 一人一人を大切にし、結果だけでなくプロセスを認め、奨励、称賛する教師の姿勢
- 所属集団を大切にして、自ら考え行動できるリーダーの育成
- 相手を尊重しながら自分の意見を主張できる態度の育成